

平成28年度東京都立立川高等学校卒業式式辞

厳しかった冬の寒さも和らぎ、ようやく校内の木々や草花も芽吹き始め、今年も希望の春が巡ってまいりました。

本日ここに、平成28年度東京都立立川高等学校第69回卒業式を挙行いたしましたところ、学校運営連絡協議会協議員の駿台予備学校立川校校舎長 目黒 賢 様、本校同窓会である紫芳会理事長 渡邊 紀征 様、同じく事務局長 野口 明子 様、本校PTA会長 三井 慎二郎 様をはじめ、PTA、同窓会、地域の関係者の皆様など、多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、誠にありがとうございます。また、東京都教育庁指導部 富川 麗子 主任指導主事にもご臨席いただいております。本当にありがとうございます。

さて、卒業生の保護者の皆様には、担任から呼名を受け、クラス代表が卒業証書を受け取り、お子様の卒業が認定される姿をご覧になって、これまでのご苦勞が実をむすぶ瞬間を実感されたのではないかとご推察申し上げます。3年間陰になり日向になってお子様を育み支えてこられた保護者の皆様にも改めて、お子様のご卒業を心よりお慶び申し上げます。

この312名の卒業生の晴れ姿を、心に熱い思いを秘めて見守る担任をはじめ、すべての教職員は、言葉に表せない思いが惜別の情と混じり合って胸の中を駆け巡っていると思います。

改めて、卒業生の皆さん、卒業おめでとう。心からお祝い申し上げます。皆さんもご存じのように、私も40年前にこの立川高校を卒業しましたが、今の立高では、皆さんが先輩です。皆さんとは昨年4月、本校の校樹である「泰山木」の下で出会いました。わずか1年という短い期間でしたが、多くの思い出が私の胸には刻まれています。

合唱祭、体育祭、演コン。文化祭、FSといった行事は私の在校時代とは変化もありますが、生徒自身の手で創り上げよという気概は何も変わっていないと感じました。そして自分の夢の実現にむけて一所懸命努力する姿に心から応援してきました。皆さんは、これまでの学校生活の中で、友と出会って友情を育み、勉強や学校行事、クラブ活動に努力を続けてきました。皆さん一人一人がたどってきた道は異なり、その苦勞はあなたたち自身にしかわからないものだと思うだけに、今、ここで達成したこの成功体験を生涯大切にしてほしいと思います。皆さんは、明日から、新しい人生に向かって出発することになります。皆さんの門出に当たり、3つのことを希望し、はなむけの言葉にいたします。

第1は、「進取の気持ちを忘れないで欲しい。」ということです。進取の気持ちとは、自ら進んで物事に取り組んでいく姿勢のことです。言い換えれば、「当事者意識を持って前向きに取り組む」と言ってもいいでしょう。2008年に国際宇宙ステーションに125日間滞在した「星出 彰彦」さんは、帰還後の郡山でのミッション報告会で、「私は宇宙飛行士になるのに二度失敗したが、諦めず次の一步を踏み出したからこそ宇宙に行けた。皆さんもいろんな壁にぶつかると思うが諦めずそれぞれの夢を実現してほしい」と子供たちに話されたそうです。可能性をとらえて、自らの夢に向かって努力する姿は、まさに進取の気鋭そのものだと思います。

話は変わりますが、日本語の「卒業」は「業を卒える」と書くことから判るように達成感が前面に表されています。頑張ってやっとゴールに入った・・・という感じだと思います。ところが、英語では一般的には卒業のことを“graduation”と言うと思いますが、“commencement”という言い方もあります。これは、別の意味では「始まり」を意味しています。日本的なとらえ方とは180度方向が違っているのです。私は、この卒業を始まりととらえる考え方を持って欲しいと考えています。先ほどもお話ししたように明日からは新たな人生への出発ですから、是非、進取の気持ちで日々を過ごして欲しいと期待します。

第2は、「縁を大切にしたい」ということです。縁は「えにし」とか「ゆかり」とも言います。「袖振り合うも多生の縁」とことわざにある、あの縁のことです。当たり前のように人は一人では生きていけません。様々な縁で結ばれた人々と社会を形成しているのです。人は人との出会いで人生が大きく変わることもあります。そうであれば、

自分の人生のターニングポイントとなる出会いを見定め、日頃からその出会いを逃すことのないようにしなくてはなりません。ただ出会いを待つのではなく、日々、出会う人との、些細な縁であっても自分に生かすようなそんな心構えが大切になります。皆さんは縁あって、立川高校に入学し、切磋琢磨しながら、こうして卒業を迎えたのです。この縁を大切にして、様々な場面で生かして欲しいのです。明日から、また新しい縁が結ばれます。そしてそのことが皆さんを成長させてくれるでしょう。今まで結ばれてきた縁を大切にしながらも未来に向けて羽ばたいて下さい。

3つめは、本校の校訓にある「質実剛健」「自主自律」をいつまでも忘れないで欲しいということです。

「質実剛健」とは、「飾りけがなくまじめで、たくましく、しっかりしているさま」を指します。また、「自主自律」は、「自発的に自分自身で考えて行動し、自分自身の規範に従って己を律すること」を指します。つまり、「表面的なことにとらわれず、何事にも一所懸命に取り組み、困難を乗り越え、着実に成果を出して欲しい。」のです。そして、「人任せではなく、自ら課題に取り組み、正しい規範意識を持って自らの責任を全うする人物になって欲しい。」ということです

最後に、保護者のみなさまに一言お喜びを申しあげます。3年間の高校生活のあいだに、お子さま方は、心身共に立派に成長されて、ここに栄ある卒業の日を迎えました。本当におめでとうございます。

本日をもって、3年間お預かりしたお子さま方を、お手許にお返しいたしますが、先ほども申しあげたように、これからが人生の本当の出発点であります。それぞれ、自分の目指した道に、最大限の努力を払い、立派な社会人として大成されるようお祈りいたします。

それでは卒業生のみなさん、いよいよお別れですが、皆さんが学んだ立川高校は、40年前に私を送り出してくれた時と同じように、「泰山木」も「メタセコイア」も空の天辺を目指して、どっしりと、これからの皆さんを見守っています。立高での出会いや思い出は、生涯皆さんの心の中に刻まれることでしょう。みなさんが3年間通い慣れた通学路も、職員室前に置かれた学習机もいつまでも皆さんを忘れることはないでしょう。そして、皆さんは、立高生としての誇りを持って胸を張って生きていってください。明日からは、皆さんも私と同じ立高卒業生です。どうか、みなさんも、折に触れ卒業生の一員として本校の発展を側面から援助してください。その力を受け、これからも立川高校は都立高校のトップリーダーとして光り輝き続けることをお約束して、私の式辞といたします。

平成29年3月15日

東京都立立川高等学校長 吉 田 順 一